

# 1学年 国語 第1回定期テスト問題

2021. 6. 18実施

【思考】24 【知識】24 【関心】2 《文字ははつきり、ていねいに、見やすく楷書で書くこと》

【一】 次の問いに答えなさい。(国語Bからの問題です。)

問一 一線部の漢字の読みをひらがなで書き、ひらがなを漢字で書きなさい。

- ①朝陽を浴びる ②すなおに謝る。 ③物価の上昇。 ④拍手喝采する。 ⑤速やかな決断。  
⑥こうたいで作業をする。 ⑦物音におどろく。 ⑧くせのある文章。 ⑨こうたくのある布。 ⑩席をはなれる。

問二 次の漢字の部分の呼び名をひらがなで答えなさい。また、それを表す意味を次の中から一つ記号で答えなさい。

① ニロ ② 一 ③ 一

ア、心情・心の動き イ、言葉に関すること ウ、家・屋根 エ、がけ・岩 オ、刀・切る

問三 次の各文はいくつの文節からできているのか。それぞれ数字で書きなさい。

- ① ブラジルはサッカーのさかんな国です。  
② 横断歩道では左右をよくみて渡ろう。

問四 次の各文はいくつの単語からできているのか。それぞれ数字で書きなさい。

- ① 海岸に波がうちよせる。  
② 静かな部屋で勉強をする。

【二】 次の問いに答えなさい。

カムチャツカの若者が  
① ざりんの夢を見ているとき  
メキシコの娘は  
② 朝もやの中でバスを待っている  
ニューヨークの少女が  
③ ぼほえみながら寝がえりをうつとき  
ローマの少年は  
④ 柱頭を染める朝陽にウインクする  
この地球では  
いつもどこかで朝がはじまっている  
⑤ ぼくらは朝をリレーするのだ  
経度から経度へと

そうしていわば交替で地球を守る

眠る前のひととき耳をすますと

⑤ ところが遠くで目覚時計のベルが鳴ってる

それはあなたの送った朝を

誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ

問一 この詩の形式を何と言いますか。漢字五字で書きなさい。

問二 この詩には、二つのまとまりがあります。そのまとまりのことを何と言いますか。漢字一字で書きなさい。

問三 この詩の―線①（2行目・6行目）と―線②（4行目・8行目）は、それぞれ何を表しているか。漢字一字で解答欄に合うように書きなさい。

問四 ―線③「ぼくらはく経度から経度へと」で使われている表現技法は何ですか。書きなさい。

問五 ―線④「地球を守る」とは、ここではどういうことか。次の中から一つ選り記号で答えなさい。

ア 環境に優しくすること。 イ 起きて朝を迎えること。

ウ 寝る準備をすること。 エ 他国に力で負けないこと。

問六 ―線⑤「ところが遠くで目覚時計のベルが鳴ってる」と同じ意味を表している一行を探し、最初の三字を書きなさい。

問七 この題名に込められた作者の気持ちを次の中から一つ記号で答えなさい。

ア この国にも素晴らしい朝がやってくる。たしかに地球は回転しているのだなあ。

イ 同じ地球に住んでいる人間として、世界中の人々が心を通い合わせてやっつけていこう。

ウ 地球を繁栄させる責任は、ぼくたち若い世代にあるのだ。交代でがんばろう。

エ 若者たちだけが朝のリレーをすることができるのだ。若いということは素晴らしいことだ。

三 次の問に答えなさい。

【A】

あしたこそ たんぼほ はるか

① ひかりを おどくに

くつつけて

はなひらく ひを

ゆめにみて

たんぼほわだけが

まいあがります

とんでいこう じつはだめ

あした

だくせんの「人にいわば」に

であつために

## 【B】

おれはかまきり かまきり りゅうじ

②おう なつたぜ

おれは げんきだぜ

あまり ちかよるな

おれの こころも かまも

③どきどきするほど

ひかっているぜ

おう あついぜ

おれは がんばるぜ

もえる ひをあげて

かまを ふりかざす すがた

わくわくするほど

きまっているぜ

## 【A】の詩について

問一 季節はいつですか。漢字で書きなさい。

問二 「あしたこそ」という題名にはどのような言葉が続くと考えられるか。次の中から一つ記号で答えなさい。

ア もう夢を追うのはあきらめよう。 イ ここから遠くくにげだそう。

ウ 空は晴れわたるだろう。 エ きっと夢をかなえてみせるぞ。

問三 一線①「ひかりをくくつつけて」の意味を次の中から一つ記号で答えなさい。

ア 明かりをとめて イ 茎を高くのばして ウ 日の光を浴びて エ つばみをつけて

## 【B】の詩について

問四 一線②「おれ」とは誰のことか。詩の中から抜き出して書きなさい。

問五 一線③「ひかっている」ものを二つ、それぞれ三字以内で抜き出しなさい。

問六 この詩を音読するときの調子として適当なものを次の中から一つ記号で答えなさい。

ア 期待に満ちた明るい調子 イ ゆっくりとしたさびしい調子

ウ 威勢がよくいばった調子 エ 強弱をつけない落ち着いた調子

問七 二つの詩にうたわれている生き物の姿として、適切なものを次の中から記号で答えなさい。

ア 苦しみにたえようとする姿。

イ 自分らしく生きている姿。

ウ 精いっぱい生きている姿。

エ 夢や希望にあふれている姿。

問八 「たんばば はるか」や「かまきり りゅうじ」など人ではないものを人に例える表現技法は何ですか。書きなさい。

#### 四 次の問に答えなさい。

ある日、国語の授業で小説を読んだ。

短いお話で、全然明るくなくて、それどころか暗くて、悲しい話だったけど、僕はすごく好きだと思った。でも、どうして好きなのか全然説明できなかった。だから、シンタに話そうと思った。僕が好きなんだから、シンタも絶対に好きだろう。そしてシンタなら、その理由を教えてくれるにちがいない。

休み時間、僕はいつものようにシンタの席へ行った。待ち切れなかった。<sup>①</sup>わくわくしながら小説の話を切りだすと、シンタは顔をしかめた。

「あれ、嫌いだ。」

<sup>②</sup>頭をがっつんと殴られたような気がした。

「暗くてさ。何が書きたいんだろう。」

僕は思わず、シンタと一っしょになすいた。

「そうだよな。僕も嫌い。」

その日は、ずっと苦しかった。

僕が好きなものを、シンタが嫌いと言ったことが悲しかった。「僕は好きだ。」と言えなかったことが悔しかった。でも、<sup>③</sup>シンタと違う自分は嫌だった。僕たちは好きなものや嫌いなものが同じだから「シンシエン」コンビなんだ。違うところがあれば、僕らはきつと一っしょにいられなくなる。それは嫌だった。絶対に嫌だった。

それから僕は、シンタと話すときに迷うようになった。

休み時間も放課後も、相変わらずシンタと一っしょにいたけど、<sup>④</sup>前みたいに話せなくなった。

僕はあたりまえのことばかりを話した。「雨が降っているね。」とか、「あしたは一時間目から体育だね。」とか。

シンタもなんだかおかしかった。僕と同じように口数が少なくなって、僕みたいにあたりまえのことしか話さなかった。とうとう僕らは黙ってしまった。黙ってしまうと後はただ気まずくて、だから僕たちはだんだん離れていった。

クラスみんなは「シンシエン」コンビが一っしょにいないことを心配してくれた。でも、僕たちは自分たちに何があったのか、みんなに説明することができなかった。

(略)

「僕、あの小説が好きなんだ。」

「え？」

「あの、国語の小説。」

覚えていないかもしれない。急にこんなことを言うのは変だ。でも、そこから話をするしかなかった。僕は必死だった。だから、

「覚えているよ。」

シンタがそう言ってくれたときは驚いた。それから、こう続けたときも。

「僕が嫌いつて言ったとき、シエンタが傷ついたのもわかった。」

気づいていたんだ。謝ろうとした僕より先に、シンタが「ごめん。」と言った。

「僕たち、あれからちよっとおかしいよな。ちよっとつていうより、だいたい。」

「うん。なんか。」

「つまらないことばかり話してさ。」

「本当にそうだね。」

シンタと僕が久しぶりに話をしているのを、クラスメイトたちが見ているのがわかった。

でも、僕は気にしなかった。

「僕、シンタと違うところを発見するのが怖かったんだ。」

シンタも、気にしていなかった。

「僕も！」

思ったより、大きな声が出たのだろう。シンタは照れくさそうに笑った。

「またシエンタを傷つけるのも怖かったしさ。」

シンタのその笑顔が、僕は好きだった。大好きだった。

「傷つかないよ。」

「え？」

「僕の C なものをシンタが嫌いでも、僕は傷つかないよ。あ、ううん、傷つくかもしれないけど、でも、じやあ、だからこそ話そうよ。どうして好きなのか、どうして嫌いなのか。」

シンタはまっすぐ僕を見た。僕もシンタをまっすぐに見た。僕たちはそっくりだった。

「うん。話そう。」

そっくりだけど、全然違う人間なのだった。

「話そう。たくさん。」

僕たちはそれから、<sup>⑤</sup>前にもましておしゃべりになった。

問一 一線①「わくわくし」ているシエンタとは対照的なシンタの気持ちがわかる様子を表すことばを、文章から六字で抜き出さない。また、そのときのシンタの気持ちを次の中から一つ記号で答えなさい。

ア 不快    イ 歓迎    ウ 満足    エ 迷惑

問二 一線②「頭をつんと殴られたような気がした。」とについて次の問に答えなさい。

I 「僕」はそれまでシンタの考えをどのように想像していたか。一文で探し、初めの五字を書き抜きなさい。

II このときの「僕」の気持ちを、次の中から一つ記号で選びなさい。

ア 意外    イ 緊張    ウ <sup>しょうはき</sup>衝撃    エ 不安

問三 一線③「シンタと違う自分は嫌だった。」のはどう思っているからですか。「コソ」という語を使い、「〜と思っているから。」に続くように、二四字以上三十字以内で書きなさい。

問四 一線④「前みたいに話せなくなった」二人は、どんなことを話すようになったのですか。八字で文章から抜きだしなさい。

問五 二人の関係はどう変化したか。次のア～エを、変化した順番に並べなさい。

ア 気まづくなった。    イ 黙ってしまった。    ウ 口数が少なくなった。    エ 離れていった。

問六 シエンタとシンタは、どんなことを「怖い」と思っていたのか。書きなさい。

問七 Cにあてはまる言葉を文章中から二字で抜き出さない。

問八 一線⑤「前にもましておしゃべりになった。」とあるが、「僕」とシンタは、以前と変化してどんな関係になったか。「違い」「本音」の二つの言葉を使って、二四字以上三十字以内の一文で書きなさい。

問九 この物語の語り手は誰ですか。文章中から抜き出さない。

てんせい ふくせい

転載や複製を禁ずる  
国府津中学校 国語科